

地域見守り活動の サポートツールの開発

各地の地域見守り活動が継続して有効に機能している例はまだ少ない実態があります。
活動が直面するさまざまな課題を整理・分析し、
その解決を支援する取組モデルやサポートツール類を開発しました。

研究開発プロジェクト

高齢者見守りコーディネータ育成による 地域見守り活動の有効化



研究代表者
田園調布学園大学 人間福祉学部 教授
村井 祐一

概要

支援を要する高齢者の日常の様子を近隣住民が見守る活動が各地で実践されていますが、地域のセーフティネットとして機能するまでには至っていません。

本プロジェクトでは、①優れた見守りスキルの可視化、②地域住民が参加・継続しやすい地域見守り活動の再設計、③見守り活動の福祉施策への組み込み、④見守り支援アプリやICTシステム開発、⑤見守り支援コーディネータの育成、の5つを柱として、自治体施策と連携して十分な有効性を発揮できる地域見守り活動の取組モデルと支援ツール類を開発しました。この取組モデルは、公助と近助の効果的な連携による安心な地域づくりへの貢献をめざすものです。

研究開発の成果

地域見守り活動が直面するさまざまな課題を整理・分析し、その解決を支援する取組モデルや支援ツール類を用意したうえで、それらを活用した地域見守り活動の実践を3つの協力地域で進め、次の成果を得ました。

- 3地域ともに住民が主体となった地域見守り活動の形が確立・定着し、プロジェクト終了後も組織的に活動が継続することとなりました。
- 定期的な住民アンケート等を活動に取り入れたことにより、地域の見守りニーズの把握や住民からの認知度向上等が実現し、地域と緊密につながり支持される見守り活動が形成されました。
- 近隣住民による日常的な見守りの実践により、要支援高齢者と近隣住民との関係が深まり、見守りを超えた「近助コミュニティ」形成につながる可能性が示されました。
- 本研究活動で得られた知見・成果物を「ご近助ラボ」というWebサイトに集約し、社会全体で活用できるようにしました。

成果の活用場面

地域見守り活動の準備、地域のニーズ把握、各対象者に合ったプラン作成、日々の見守りの実施、活動に関する情報発信など、地域見守り活動の各フェーズで本プロジェクトの成果を活用することができます。これから活動を始める地域はもちろん、既に見守り活動を行っている地域でも、成果の一部を取り入れて、見守り活動の円滑化や効果の向上につなげることができます。

地域見守り活動を5つの場面に分けて研究開発したサポートツール



地域見守り活動の準備のための 会則・研修・ワークショップ

- 見守り隊会則(例)
- 見守り隊個人情報保護規定(例)
- ちいきのちからシート
- 見守り計画ワークショップ



地域の見守りニーズを 把握するための調査

- 実態調査アンケート
- アンケート集計シート



見守り希望者それぞれの 状況に合わせた見守りの準備

- 見守りアセスメントシート
- 週間行動計画シート



見守り活動の実践

- はじめての見守り活動ガイド
- 支えあい報告システムLAX
- 見守り活動記録表
- 異変チェックリスト
- 緊急時対応フローチャート



見守り活動についての 情報発信・協力者募集

- 広報ジャーナル(例)
- 見守り活動体験会(例)

地域見守り研究所 ご近助ラボ

<https://mimamori.murai-labo.com/>

成果の担い手・受益者の声

担い手

見守り活動をやりたいと考えていた自治会や民生委員が「本当にやるぞ」という気になる、重要なきっかけづくりとなりました。(地域包括支援センター職員)

受益者

セルフ報告をご近所の方に受信してもらうようにしたら、普段からそれとなく気遣っていただけの、これまでよりもよい関係をご近所と作ることができました。(見守り対象者のご家族)

目指す社会の姿／今後の課題・展望

地域見守り活動は多くの地域で取り組まれています。活動が継続し有効に機能している例はまだ少ないのが実態です。本プロジェクトの成果を広く活用していただき、見守られる人のニーズに寄り添った、効果的で地域社会としっかりつながった見守り活動づくりに貢献できればと思います。住民主体の地域見守り活動が有効に機能すれば、多くの高齢者が地域とのつながりを得て、いざという時には迅速に支援の手が差し伸べられる、安心・安全に暮らせる地域社会づくりにつながるものと考えます。